

授精課通信



6月19日～25日の日程で行われた、Alta Showcase Tour MICHIGANに参加し農家視察をしてきましたので報告します。



開催場所は、アメリカ・ミシガン州のランシングで行われました。ランシングは半島部の南側にあり日本時間との時差は13時間ほどです。緯度的には北海道とほぼ同じで夏の平均気温は27～8℃位で冬は-7～8℃位です。主な農作物はコーンと大豆で北海道に似ていると思います。

出発は釧路空港から、成田、シカゴを經由（8時間足止め）しランシングまで29時間かけて何とか辿り着き、ホテルに着いたのが現地時間の深夜2時近くで、翌朝6時過ぎから出発と結構、弾丸な感じでスタートしました。

初日は、現地の技術者の仕事を見学させてもらい直接、技術者と話しができて視野が広がる貴重な経験をさせて頂きました。

自分の勝手なイメージだとアメリカの技術者は、物凄い頭数をこなす為に効率重視な考え方をしているのではと思っていましたが、仕事振りや話しを聞くとイメージとは真逆で、農家とのコミュニケーションを大事していて、チームで農場を良くするために関わっていくという気持ちが伝わりました。

アメリカでは、AI技術者の殆どは、精液会社（World Sires・ABS・CRI・Altaなど）に所属しています。チームで農場に関わるという事についてAltaを例にとって紹介します。①初めて行く農場では、最初にSire Analystが農場に行き農場主と牛舎や牛を見て回り、問題点の抽出や育種改良の方向性を話し合う。②Repro Managerが繁殖管理方法や適正なカ

ウコンフォートチェックする為に現場を何度か訪問、③Repro Tech が発情発見や AI を担当し、役割を持った者がチームで関わっています。
そしてその繁殖チームが、農場の各担当者と定期的にミーティングを行い同じ目標を共有する事で繁殖の成績を上げている現状を見て、ここが自分達に足りないものだと実感しました。



GMの人工専用車です



殆どの農場では、牛舎横に繁殖専用室があります



Repro Tech が毎日、同じ時間に来てテイルペイントを付けながら発情牛を探している様子。

初回種付けは、DIM70 日台を狙って W オブシンクで授精したあとに 30~35 日で主に AI 技術者が妊娠鑑定を行います。また、毎日テイルペイントを付けに牛舎を回る事で自然発情の発情発見向上にも貢献している。こうした地道な作業により妊娠率が 30%~34%の農場が幾つもあるとの事です。

今回のツアーで数件農場を回らせてもらった詳しい内容は次回以降に紹介したいと思います。

太田